

ミニグループディスカッション 2 は IVUS の所見の読みの解説であった。チューターの先生がパソコンを使用し、冠動脈造影所見と IVUS の所見を対比させてわかりやすく解説して下さった。

まず IVUS での血管壁の構造について示してくれた。

IVUS カテーテルの見え方、内膜、中膜、外弾性板などに相当する基本的な構造についての説明からであり、画像の中心から外側に向かい順に見ていくことを勧められた。

つぎに soft plaque、fibrous plaque、偏心性の plaque などの解説を頂いた。Plaque のつきかた、性状、側枝の出方などを理解し PCI に生かすことは極めて重要なことである。Negative remodeling、shrinkage、positive remodeling などを理解することは stent size を決定する上で重要なファクターである。ACS 症例の多量の plaque、plaque の抜け殻、血栓の関与、plaque rupture、lipid pool、安定狭心症との違いも解説していただいた。石灰化の見方も大変役に立つものであった。Deep calcification、superficial calcification、石灰化の範囲、echo attenuation との鑑別の仕方などは PCI の戦略を考える上で極めて重要である。バルーンで拡張できるのか、ステント、特に Cypher は持ち込めるのかななどを予想する場合、IVUS の所見は大変参考になる。Echo attenuation との鑑別も重要である。多量の plaque が存在すると考えられる例では Distal protection の必要性が出てき、slow flow、no reflow の危険性を回避でき、また IVUS の所見次第では PCI を行わない方がより安全である場合が存在する。

PCI による冠動脈解離、血腫形成などの IVUS 所見の理解も PCI を行っていく上で極めて重要である。

急ぎ足ではあったが盛りだくさんの IVUS 所見を短時間で解説して頂いた。

印象的であったのはフェローすべての施設で緊急例も含めて IVUS を PCI に活用していることであった。